

広島コミュニティセンター市長懇談会

- 日 時：平成 30 年 7 月 18 日（水） 10：20～12：10
- 場 所：広島コミュニティセンター
- 参加者：13 名

1. 平井会長あいさつ

西日本豪雨により、広島をはじめ手島もかなり被害を受けた。ここにいる皆様と地道な作業で徐々に片付いてはいるが、人的に限度がある。災害時の対応を含め、懇談会の議案は 3 件ほど提示しているが、それ以外に聞きたいことがあれば、限られた時間だが皆さんよろしく願います。

2. 市長あいさつ

30 年度のコミュニティの市長懇談会を開催していただき、ありがとうございます。このたびの豪雨で、島嶼部は雨量が多かった。被害についての報告を受けているが市では体制を整えながら、とにかく人的被害がでないように対応してきた。今後は被災の箇所についての確認と復旧作業をしていく予定である。今日、一緒のフェリーに県の土木事務所の職員も乗っており、被災箇所を見て回ると伺っている。市でも、点検し復旧作業を進めていきたい。

今日の懇談会は、皆さんの意見交換をお伺いしながら進めてまいりたい。色々な問題や提案を出していただき、一緒に解決策を考えていきたいと思っている。どうぞよろしく願います。

2. 参加者のご紹介

3. 総合計画、都市計画マスタープランについて（説明）

（市長）

「豊かで暮らしやすいまち丸亀」を作るために 5 つの観点から物事を進めていこうということにしている。5 つの柱としての全体計画は 8 年だが、それぞれの柱の中、4 年間で取り組んでいくプロジェクトを黒丸印に書いている。

5つの柱の1つ目は、「心豊かな子供が育つ」。子育てをするなら丸亀の実現を目指し、待機児童解消や子供の貧困対策の推進していく。また、教育の関係では小中・地域と連携教育の推進や教員の勤務環境整備という新しい課題がある。2つ目は「安心して暮らせる」。離島における生活環境向上を大きなプロジェクトに掲げている。3つ目は「活力がみなぎる丸亀」。地元企業に必要とされる人材を育成する、地域内では企業の立地促進に取り組んでまいりたいと考えている。4つ目は「健康に暮らせる」。これは糖尿病を中心とした健康生活習慣病対策、それから介護体制を整えていく取り組みである。島の場合は、どれだけ協力して健康に暮らせるか、介護保険のサービスが十分でないというところをどうやってカバーするか、島の医療をどうやって確保するかなどが課題となると思う。5つ目は「みんなで作る」。いろいろな課題について市民が一緒に参加することがまちの活性化につながる。コミュニティ市長懇談会もその一つの取り組みだと考えている。大きな5本の柱の中に、重点的に取り組むプロジェクトを構成し、総合計画を作成した。

都市計画のマスタープランは20年ぐらいの長い計画です。ちょうど10年経過したので、中間見直しをしている。合併後、土地は広がったが、丸亀市の中心はやはりJRから丸亀城、大手町付近が中心拠点になるということで改めて中心市街地に位置づけさせてもらった。新しい市庁舎もそこに建設します。公共施設や教育・文化施設は点在させるのではなく、中心市街地に集約させて、コミュニティバスなどの公共交通を整備していこうと、将来の人口減少を見据えて、コンパクトシティを目指していこうという考え方である。島の位置づけは、他の地域と連携を図りながら、それぞれの島嶼部にあったやり方が必要だと考えている。

4. 懸案事項

① 尾上邸の活用について

(会 長)

広島町立石地区にある尾上邸は数年前から市が寄贈を受け、観光資源として活用するよう要望しているが、所有者に聞くと市との交渉はまだ進んでいないとのことだった。尾上邸の活用についてどのように取り組んでいこうとしているかをお伺いしたい。

(市 長)

尾上邸につきましては昨年度から所有者より寄附いただくという方向で話をいただいている。歴史的な背景・物語もあるし、立派な建物なのでなんとか島の活性化に活か

せたらいいと思っている。ただし用途の面で、公共施設としての活用はなかなか難しいと考えている。出来れば民間資本で、例えば宿泊施設にするなど、維持管理費が回収できる、あるいは地元で雇用が生まれるようなそういう活用の方法がいい。島の人で運営していくのが雇用の面や島に収益が残るという意味では一番いいと思う。たとえばNPO 法人を中心に一つの取り組みをしてみるのはいかがでしょうか。島の中に中心となる組織を作って、いろいろなアイデアを出していくことが第一段階だと思う。その動きを市と一緒に応援してやっていきたいと考えている。

(男性 70代)

大筋は理解できたが問題はお金の面だと思う。行動するにしろある程度の予算がつけば地元の人でも動きやすいと思う。たとえば国の補助金などがあれば夢も膨らんでくる。地元である程度の運営を考えるというのはその通りだと思う。しかし、費用面などの負担がはっきりしないのでは、動きにくい気もするので市が後ろ盾になってもらいたい。

(市長)

島の皆さんの意識はどうか？今現状は？

(会長)

島のみんなで頑張ると言っているが、高齢者が多いので、出来たら早い時期に立ち上げをした方がいいのではないかと考えている。今、70歳前後で、まだ一番元気な時に早急に取り組んでいきたい。

(男性 70代)

年齢的には厳しいものはあるけど、島の夢をもう一度実現出来ないかという気もする。

(市長)

必要となるお金の面で、法人を立ち上げて運営する資金か、尾上邸の改修費用か、あるいは両方なのか、全部市で負担するというのは難しいと思うが具体的なすり合わせが思う。多度津の佐柳島では学校の跡地を利用したカフェができています。そこは宿泊施設もある。島内の出身者がお盆に帰ったときに利用したり、校舎で泊まったりして同窓会しようかという話がチラホラ耳に入ってくる。トイレは綺麗なのを作っている。多度津町が国の予算をもらってやっているのではないかと思います。詳しくはご存じないか。

(離島振興室 山田)

佐柳島の宿泊施設とカフェが一緒になった施設で、元の小学校を改修した施設である。

地域おこし協力隊という制度を活用して夫婦で移住した方がそこを管理運営している。その整備についても地域おこし協力隊の予算の中で整備改修していると聞いている。地域おこし協力隊は、島外から島に住所を移し活動している方である。

(市長)

施設の改修予算は？

(離島振興室 山田)

地域おこし協力隊の活動経費の中から支出しており、多くの費用はかかってないと聞いている。

(市長)

地域おこし協力隊というのは、希望者を募って離島に派遣して3年くらい住んでもらう。人件費は国が支払ってくれる制度です。それらの経費は特別交付税だが、丸亀には競艇の収入があるため交付されない。そのような事情で丸亀市は地域おこし協力隊という制度は使えていない。市独自でやらないといけない。

(男性 70代)

尾上さんの方から市へ建物を寄附することなら市は受けるのか？

(市長)

文化的な価値があるもので、市がもらえば維持管理の責任がある。しかし文化的な価値があるからという理由で、市が利用できないものを寄附を受けて維持していくということはできない。運営活用方法を一緒に考えて欲しい。何の活用もできないのであれば市は寄附を受けられないし、尾上邸にしても取り壊すしかないという話になる。それでは困るし、市としても島のために有効に使いたい。どこかの民間の人がもらって活用したいということになれば市が仲立ちしてもいいと思う。

(会長)

東京でいる島に縁のある人がその為に資金調達など一生懸命動いてくれている。

(市長)

以前から来てくれている東京の方がスポンサー探しもこちらで募集するよりいいということで協力してくれている。自身も運営にある程度関わってもいいということで、活用方法の案も考えてくれている。もう少し具体的な形になれば前に進むと思う。

(男性 70代)

私が思うには、島民の熱意だと思う。何がやりたいか？芸術的なことをやりたいの

か？コンサートをやりたいのか？宿泊施設なのか？そうすることによって島にお金が落ちてくる。活性化、活性化と言ってもなにもならない。若者が入ってきても生活できない。

(市長)

その通りだと思う。本当に何にするのか、どのような使い方ができるかというのを島の人達を中心に案を出した段階で具体化するとよいと思う。引き続き相談をお願いする。

② 客船等船便の増便について

(会長)

客船など船の増便についてということで個人的に備讃フェリーの社長といろいろ話したことも含めてお話したい。社長の要望でもあるが、手島、小手島から丸亀までの昼の便を増やしたい。それと、現在、午後5時半になっている丸亀からの最終便の時間をもう少し遅くして欲しい。島で暮らす人が、丸亀で仕事して5時半の船に乗ることは可能だが、坂出市や多度津町で仕事をする人には難しい。若い人たちに島で生活してもらいたいということであれば、最終便はもう少し遅い便があった方がいいと思う。

それと青木港の件に関して、社長はいろいろなことを検討したいと言ってくれている。市とフェリー会社とでお話できないか。

(市長)

以前から継続している話だが、増便した時に運行経費が増加するので、今まで以上に経営が悪くなり、その分税金の負担が増えるというのを国は抵抗する。どれぐらい採算がとれるのかという話になる。便数を変えずに時間を変更することに関しては、話し合いをすることは可能だと思うので、これからも十分に話し合っていきたい。先程の尾上邸の話と関係するが、例えば何に利用するかと考えたときに、尾上邸のみで考えるのではなく、島全体として捉え、備讃の社長にも加わってもらい、島全体の活性化につながるような企画を作らないと難しい。収益が見込めるのであれば、手島、小手島の昼の増便、夜の便また青木港の栈橋の設置についても、場合によっては可能かもしれない。そんなことを一緒に考えていきたい。これは引き続きの課題で協議したいと思う。

(男性 70代)

青木港の栈橋は、2年ぐらい前に引田町に中古の物があるので移設する話があったが、いつ作ったものか不明なので移設できないと市で言われた。中古の方が費用が安いのでい

いと思うが。

(市長)

中古であっても、移設後は市が管理など全て責任をもたないといけない。やはりそれぞれの島で1箇所の港湾を整備するという方針があるため、市が費用を全て負担するのは難しい。

(男性 70代)

青木港に浮棧橋が無いと救急患者搬送のための船を着けることができない。毎回、離島に1つとか中古はダメだという逃げの回答はやめてもらいたい。

(市長)

棧橋があれば、救急患者は勿論便利であるというのは理解できるが、現在は患者を江の浦港まで車などで運んでいるが、今回の雨のように道路が寸断される場合もある。そのような想定もしながら、昔のように財政状況がよければいいと思うが難しい。いろいろな方法を考えなければならない。

例えば漁協にも協力いただくとか、船会社か市が資金を出すかという議論になるとも思う。

(男性 70代)

状況も変わっていくと思う。手島・小手島・広島3島全体の問題として考えないといけない。

(男性 70代)

費用対効果を考えたら難しいのかもしれない。島民の利用というのは限られているのだから、利用者を増やすために他所から来てもらわなければならない。そういうことを島全体で考えていかなければならない。

(市長)

本当に必要性があれば作るべきだが絶対に必須の物かどうかを判断せざるをえない。

(男性 70代)

船に島の人に乗るのは年間限られている。将来いくら努力をしても人口は減っていく。各島のいいところを発信して、都会から来てもらわなければならない。小手島ではアートなどいろいろやっているせいか、年間を通じたら小さい島でも出入りは多い。しかし行政施設や学校、公衆トイレもない。小さい建物でもあれば、いろいろな人を受け入れ体制ができ、そこからいろいろなものが膨らんでいくと思う。80歳が近いので、タイミング的

にも今が最後。今とことん島でエネルギーをつぎ込むしかないをつくづく感じている。

(市長)

ありがとうございます。一人の努力でもすごく成果がでると感じる。それぞれの人がやっている努力に対して市としてやれることをもう少し考えないといけないと思う。

③ 災害時の対応について

(会長)

災害時の対応について、島民への緊急の連絡や応急措置についての連絡等、いろいろなところを経由してくるせいかとても遅く感じる。また正確な情報や答えを誤解することもあり苦慮している。先日の豪雨の際も、県道の通行止めを午後1時に行うと言ってきたのは午後0時ぐらいだった。1時間の間に全ての島民に連絡するのは難しかった。どうやって島民全体に正確な情報を早く知らせるか検討して欲しい。

(市長)

どこからどういう経路で連絡しなければならないという決まりはない。市に直接確認いただいても、連絡いただいてもいい。現在、情報提供が上手くいってないということなので、個別に反省して改善するしかないと思う。対処療法という形になるが、個別事例で考えるしかない。細かい具体的な対応のやり方で要望していただいたほうがありがたい。

(男性 70代)

連絡自体はセンターがしてくれるが、後の措置がとても遅い。建設組合があるが地元の業者だけではなく、土砂の撤去とかは他所の業者の応援を市からお願いしないのか。

(市長)

もちろんある。調査してからやらないと、二次災害なども考えられる。すでに業者に発注をしているはず。

簡単に修繕できる場所とそうでない場所がある。大掛かりな場合、やはり予算を組んでからの取り組みになる。激甚災害とか災害指定がないと国からの支援が受けられない。

(男性 70代)

島民が一番早く情報が欲しい。通行止め箇所について、ポスターなどの案内を手前の道路に作って欲しいとセンター長にお願いして、すぐ対応してもらった。これからお盆の帰省客がどんどん入ってくるので、分かれ道や港周辺などに掲示していた方がいいと思う。できれば通行止め期間の記載があった方がありがたい。

5. 自由討議

(男性 70代)

4月からいつのまにか島の派出所が丸亀の中央交番と一緒にになり、派出所がなくなった。今回の大雨など大事な時には派出所がなかったら困る。盆で帰ってくる帰省客やキャンプする若者もいる。その辺も含めて安全安心の町づくり、お年寄りが安心して生活出来るようなことを考えてもらいたい。

(市長)

島民が増加すれば復活もありえるかもしれないが、今のところ派出所の復活は難しい。災害の時は来て欲しいとか夏の時期は来て欲しいということは県警の方に言わないといけない。島だけに限らず、駐在所や交番も集約されて少なくなっているのが現状である。

(男性 70代)

側溝に土砂がたまっているのだが、どこに言えばいいか。

また近所の空き地に雑木がたくさん茂っている。勝手に切ってもいいか。それも知りたい。

(市長)

道路管理者に言ってもらうこととなる。県道は県、市道は市だと思う。

雑草については、市から所有者に連絡して切ってもらうようお願いしているが、返事がないのがほとんどである。県道については県に強く要望する。

(男性 70代)

道路管理者は雨の日に車で走ればどのあたりに水が溜まるのかがよくわかると思う。天気のいい日にばっかり走っても全くわからない。

(会長)

県知事に早期復旧に向けた要望をするため、本島と広島地区の連合自治会で25日に会いに行く予定にしている。

(男性 70代)

丸亀の待合室トイレがとても汚い。臭いがある。あそこは島の玄関なのでどうにかならないか。

(男性 70代)

関連質問でうちの地区には高齢者で足の不自由な方がいるので、フェリーの待合室と乗り場との間にちょっと距離があるので、歩くのが大変だと聞いている。船の発着する近くにベンチが欲しい。あれば助かると思う。

(男性 70代)

茂浦の公園に山の神という展望台がある。高いところで水道が通ってない。ポリ容器に入れて手洗いにしている。出来たら水道があれば一番いいと思う。

(男性 70代)

丸亀の待合室トイレの公衆電話がしらないうちに外されていた。この前、高齢者がタクシーを呼ぶのに電話したかったができなかったといていた。

(市長)

公衆電話ではなく、船会社でかけさせてもらうとか、そういう代替りの手段というのがあると思う。NTTに経緯を聞いておく。

(女性 70代)

6年前から島案内所を開設し、コツコツとやっている。日曜も島外から観光客が来る。よく質問される事が食事する場所がないのかとよく聞かれる。以前センターの跡地を利用して何かできないかと聞いたが難しいと言われた。新しいセンターを利用するようと言われてる。一番船着場から近いところがいろいろと案内するにもいいしそこで食事を出来たらなという思いがある。

(広島市民センター 近藤)

耐震がなく、老朽化して漏水をしているので使用できない。他にもトイレの排水口の配管が陥没したりしている。管理する費用がたくさん必要になる。

(市長)

維持費が必要になる。その費用が出せるかどうかという話になる。

(女性 70代)

活動するには土日であるが、市民センターは開いてない。その辺も考えないといけない。

(市長)

センターは開いていなくても、コミュニティセンターは利用可能である。管理をする人が、団体の責任者が申し込みをしておけば、鍵も貸してくれるのでぜひ利用して欲しい。観光客の食事場所としてももそうだが、皆が寄って島の人たちでも食べたらいいと思う。

島基準で考えてやったらいいと思う。

(女性 70代)

そういう方向で考えてみたい。

(市長)

ぜひ有志を集めてやってみて欲しい。島の独特の料理を提供するのもいいと思う。

(会長)

今使えるところでやろうとしたら、コミュニティセンターかデイサービスで出来ると思う。

(市長)

今後は近隣市町村とも連携をとっていかなければならない。島の中で若い人が住めるような条件作りをしなければならない。若い人が住むとコミュニティも維持できるし、それに付随するいろんなものも維持できると故郷も保てると思う。

(男性 70代)

船の時間に合わせてコミュニティバスが青木から江の浦まで運行している。今までなら、一周回れていたが、先日の災害で道路が寸断され、臨時的に二つのコースに分かれて運行している。取り敢えずは、バスの運転手を確保して、臨機応変に対応してもらいたい。

(市長)

今回は災害なのでそれは理解できる。

(東議員)

島嶼部では、限られた予算の中でやりくりしないといけないと思うが、島のみなさんが受けているサービスの中で、過剰なサービスだと感じるサービスはないか。昨年の市長懇談会の中で、夏の間のゴミ収集を2回しているところを1回にしてもいいから、他のサービスを増やして欲しいと言われていた。具体的に何かあったら今日でなくていいので教えて欲しい。

来年、瀬戸芸があるがそれに併せて広島地区でも何かやって欲しい要望がありましたら教えていただけたらと思う。